

2004.10.1

# 循環器・呼吸器病センター

## だより

### 第25号



清秋の候、先生方におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、当センターでは老朽化したMRIを更新すべく準備を進めております。更新後は、最新の超電導MRI装置にて、超急性期における脳梗塞診断や心疾患の診断が可能となります。

当センターといたしましては、医師会の先生方との連携を推進し、これらの機器を最大限に活用しつつ、高度専門医療を進めて参る所存です。

今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

病院長 堀江 俊伸

## 呼吸器外科の概要

呼吸器外科部長 星 永進

我々の科は常勤医5人、非常勤医2人の7人で構成されております。2000年以降は年間およそ300例の呼吸器外科手術を施行しております。その中で原発性肺癌の手術は年間130例を超えるまでになり、関東でも手術数の多い施設になりました。

昨今、新聞や週刊誌などの記事で肺癌手術数や手術成績のランキングが出されるようになりました。我々の施設も再度調査しましたので、この場を借りて報告いたします。1991年から2003年末までに937例の肺癌外科治療を施行しました。全体の5年生存率は52.8%でありました。

臨床病期別の5年生存率は A期(277例)74.4%、 B期(224例)51.8%、 A期(25例)28.2%、 B期(146例)43.6%、 A期(195例)42.2%、 B期(66例)32.8%、 期(4例)25%でありました。

病理病期別の5年生存率は A期(248例)81.8%、 B期(177例)61.6%、 A期(30例)78.8%、 B期(137例)44.2%、 A期(163例)29.0%、 B期(135例)25.7%、 期(7例)22.9%でありました。

全期間での術後30日以内の手術死亡は17例(1.8%)でありましたが、2000年以降では7例(1.5%)と少し改善してきております。早期癌のみならず、進行癌や肺機能低下症例、間質性肺炎合併例、循環器系疾患合併症例などを積極的に手術している現状で、さらに改善させられるように努力していきたいと考えております。今後も先生方の御指導、御鞭撻よろしくお願い申し上げます。